

平成二八年度足育（あしいく）の推進について 足が変われば『明日』が変わる

かにかくに物は思はじ飛騨人の打つ墨縄のただ一道に

万葉集作者不詳

足かけ六年目を迎えた足育推進委員の共通した思いです。この一年の歩みを振り返り、これからの取り組みを記します。

一、足育指導資料第二集の発刊

（各都道府県の総会、研修会の日程、会場、人数を学体連にお知らせいただければ、お送りします）

第二集のポイント

（一）「2・4・6学年」における保健指導の指導案を追捕しました。また「一・三・五学年」での出前授業の検証を基に、指導案を改定しました。

（二）足育推進園・江戸川区立船堀幼稚園、足育推進校・練馬区立大泉西小学校の実践事例を加えました。

（三）朝の会、終わりの会保健室での保健指導など短時間で指導できる、足育十四のコラムを加えました。

二、足育研究推進園・小学校における研究発表会

○江戸川区立船堀幼稚園
平成二七年十一月十九日木
参加者一六二名

○練馬区立大泉西小学校
平成二八年一月十二日火
参加者一二九名

三、足育福島全国大会開催
平成二七年八月七日名（約）
参加者一〇八名

四、出前授業

○私立学校全国大会（私学会館）平成二七年八月十八日（火）私立小学校教員約八〇名

○平成二七年十月二四日
目黒区立宮前小学校
児童数三・四年生一一九名

○平成二七年十一月十四日
杉並区立高井戸第三小学校
児童数三年生六一名

○平成二八年一九日
練馬区立南町小学校
児童数二年生六三名保護者
三二名

○平成二八年一月二八日
江戸川区立船堀第二小学校
児童数四年生一一九名保護者
八二名

五、足育推進委員会
年間七回実施

六、これからの足育推進委員

会の課題について

足育を学校（園）における健康教育の一環としてカリキュラムに位置付け、家庭教育との連携を図り、社会の習慣となり、文化となるよう推進する。

（二）中・高等学校における足育の実践について

①幼稚園から小学校における実践を踏まえ、中・高等学校での『足育指導資料作成委員会』を設置し、そのカリキュラムを編成し、実証した指導資料を作成する。担当 参与吉永武史

②他校種における足育の実践組織と連携する。
例 東京大学教育学部附属中等教育学校 福島 昌子先生

（二）ワンポイントレッスン『足育コラム』の充実と保健室における十分間保健指導

①足育推進委員の試案を基に実証授業を行う。

②指導案を第二集に追捕するまで仕上げ増刷、福島全国大会にて配布

③吉村眞由美先生の資料を

参考にして、コラムの充実を図る。

（三）全国で展開されている足育の推進内容の把握

○保護者指導の現場にオブザーバーとして参加し、助言する。

（四）全国に呼びかけ足育の実践交流を行う・仮称『足育フェスティバル』

全国各地の足育実践団体に呼びかけ、実践の交流。足育の在り方を究明し合う

（五）足育マイスターの条件をグレードアップする

理論と実践を身に付けた足育マイスター制度の確立

（六）足育パンフレットの改訂版の作成

（七）共催団体である日本教育シユーズ協議会（理事長早川家正）の各支部からの要請に応じた出前授業

（八）足育第二集を全国に送り届ける。

七 本年度の取り組み

（一）足育推進幼稚園と小学校の設置

○港区立高輪幼稚園（園長新山裕之）

○葛飾区立新小岩学園松上小学校（校長・渋谷英一）

（二）足育推進委員会の委員を増強する

◎足育推進委員会委員

●内木勉（練馬区立大泉北小学校校長）

●眞砂野裕（昭島市立成隣小学校副校長）

●難波誠二（台東区立大正小学校副校長）

●武田千恵子（足立区立足立小学校主任教諭）

●関口亮治（千代田区立お茶の水小学校主幹教諭）

●吉川則久（奥多摩町立古里小学校主幹教諭）

●濱田 哲（台東区立千束小学校主幹教諭）

●小島大樹（調布市立第三小学校指導教諭）

●西島秀一（世田谷区立松原小学校主任教諭）

●両角知子（八王子市立第五小学校主任教諭）

●前村章太（世田谷区立駒繫小学校教諭）

○新委員
●平 武志（台東区立金竜小学校主幹教諭）

●岩田純一（墨田区立業平小学校主任教諭）

●青木大輔（葛飾区立南奥戸小学校主任教諭）

●吉村眞由美（早稲田大学人間総合研究センター招聘研究員）

●寺内周平（新足育推進校葛飾区立新小岩学園松上小学校長教諭）

●(二) 学体連「足育調査研究委員会」の設置

①目的
「足育」を学校教育に位置付け、健康教育として日本の生活文化とするため「足育」の効果を検証し、その有意性を学術的に立証することを目的とする。

②委嘱期間（平成二八年四月一日～三〇年三月三十一日）
○第一期平成二八年四月～一月「調査内容」「調査校の取組内容」を決定
○第二期平成二八年一月～平成二九年一月調査実施↓分析考察『何が変容したのか』

○第三期平成二九年一月～平成三〇年三月月「足育」の効果検証『何が効果があるのか』

③調査対象（現在調査可能校

・園

○平成二七年度協力校・園

●練馬区立大泉西小学校

●江戸川区立船堀幼稚園

○平成二八年度協力校・園

●葛飾区立松江小・中学校

●港区立高輪幼稚園

④内容

先行研究との比較含めて

「足育」を学んだ児童・保護者・教員の変容を分析し「足育」の効果を検証する

《案1》意識の変容○児童の靴への関心（正しいサイズ・履き心地など）、運動意欲、生活変化など

○保護者の靴への関心（正しいサイズ・購入額など）

《案2》足の形状の変容

○JES及び学校保健会の先行研究を「課題の所在」とする

○足の形状（足型・3D・その他）の調査・経年比較
《案3》体力・運動能力調査の結果変容

例・反復横跳び

●A群（適合上履き↓普段の上履き）とB群（普段の上履き↓適合上履き）の結果比較等

●介入群と非介入群との差
例・正しい履き方

◎足育調査研究委員会委員

●岡出美則（学体連理事長筑波大学教授・委員長）

●早川家正（日本教育シニエズ協議会理事長）

●井口 傑（元日本靴医学会理事長）

●吉村眞由美（早稲田大学人間総合研究センター招聘研究員）

●湯田厚子（全国養護教諭連絡協議会副会長）郡山市立大成小学校養護教諭

●眞砂野裕（足育推進委員昭島市立成隣小学校副校長）

●濱田 哲（足育推進委員台東区立千束小学校主幹教諭）

●倉前広子（前足育推進幼稚園）江戸川区立船堀幼稚園教諭

●内木 勉（前足育推進校・練馬区立大泉北小学校校長）

●新山裕之（新足育推進園港区立高輪幼稚園園長）

●寺内周平（新足育推進校葛飾区立新小岩学園松上小学校長教諭）

●菅原健次（学体連理事）

●吉永武史（学体連参与・早稲田大学准教授）

(四) 第一回足育調査研究員会の概要（平成二八年六月四日土曜日、JES事務局にて）

①ブレインストーミングによる自由意見

○ゆるい靴を履き続け足が痛くなった経験がある。エビダンスを大切にした研究○教員がこの問題をどれだけ重視しているかが疑問。きちんと立っていない子供は多い気がする。体力向上のようにわかりやすい観点から子供の変容を追ってはどう○何かの方法で「足の力」を計測できるとよい。授業を評価していくことも重要○長期的に調査していくことが大切ではないか。

○何が変容したのかの前に現状（今、どんな動き方をしているのか、どんな靴を履いているのか等）を把握しておくことが大切。靴を履く場所も（靴をきちんと履くためには）重要である○みんなが健康になるために、どの程度の証明を必要としているのか。「これを調査したい」という内容が明確になれば、具体的なアドバイスもできる。

②課題提示

○足育（今後の定義必要というプログラムの有効性を検証する研究はあるのか

↓プログラムは目的があつてのもの。この目的に沿って検証していくことが大切○

変容させたいのは、保護者の認識か。子供の認識か○「調査すべき項目」と「調査できる項目」は異なる（例・喫煙教育や靴購入においても家庭ごとの対応が異なる）

・足育の授業評価のためにもなにかしら（事前・事後に使える）定番の「調査表」が必要ではないか（例・足にあった靴は必要だと思うか）

↓重要性の認識だけでなくそれが維持するか。あるいは行動の変容につながるかで見取ることが大切。

③岡出美則委員長による全体のまとめ①介入していない学校の実態（データ）②介入したことによる変化（維持効果も含めて）③何故変化したのかなどの検証が必要である。